

運動部活動の活動時間と学力には「弱い負の相関」あり

2020年2月15日

学習院大学教授 長沼 豊

【分析結果の概要】

●47都道府県別の中学生の運動部活動の活動時間と学力・学習状況調査の結果を比較分析したところ、相関係数は -0.29778 で「弱い負の相関」であった。つまり運動部活動の活動時間が長いほど学力が低い、学力が高いほど部活動の活動時間は短いという傾向があることがわかった。

●部活動の活動時間の長い10道県のうち9道県は学力が中位か下位となっている。つまり運動部活動の活動時間が長い都道府県は、学力が上位にはなっていない傾向にある。

一方、学力の高い9都県のうち8都県は部活動の活動時間が中位か下位(短い方)となっている。つまり学力が高い都道府県は、運動部活動の活動時間はそれほど長くない傾向にある。

○関連して、東日本と西日本(※)の別に、1週間当たりの部活動の活動時間の平均値を算出したところ、東日本が790分、西日本が825分であり、西日本の方が35分長かった。このことから、運動部活動の活動時間の長さは「西高東低」であることがわかる。西日本の方が日の入りの時刻が遅いため長く活動できるのであろう。

※東日本は北海道・東北・関東・中部の23都道県

西日本は近畿・中国・四国・九州沖縄の24府県

【分析方法】

運動部活動の活動時間については、スポーツ庁「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」(2019年12月23日発表)の都道府県別、男女別データから対象生徒数を根拠に平均値を算出した。対象は中学2年生である。

学力については、文部科学省「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果」(2019年7月31日発表)の都道府県別に公表された国語・数学・英語の平均正答率の平均値を算出した。対象は中学3年生である。

両者の47都道府県別の数値を分析の対象として相関係数を求めグラフ化した。また各々の上位・下位の10都道府県の状況を調べた。

また、念のため2019(平成31・令和元)年度の学力(中学3年生)と、2018(平成30)年度の運動部活動の活動時間(中学2年生)でも考察した(比較対象が同一生徒になるため)。

表1 部活動の長い都道府県

	部活動順位	学力順位
福岡県	1	32
香川県	2	21
神奈川県	3	10
千葉県	4	30
宮崎県	5	32
北海道	6	35
佐賀県	7	46
奈良県	8	24
沖縄県	9	47
埼玉県	10	21

表2 学力の高い都道府県

	学力順位	部活動順位
福井県	1	43
石川県	2	20
秋田県	2	31
富山県	4	39
静岡県	5	26
東京都	5	38
兵庫県	7	14
岐阜県	7	47
愛知県	9	40

上位(1~16位)
 中位(17~32位)
 下位(33~47位)

逆に、活動時間の少ない10都府県のリストには学力上位の7都府県が入っている(表3を参照)。部活動の活動時間が短いほど学力が高くなる傾向を示している。

一方、学力の低い9県のリストには部活動の活動時間の上位(長い方)が4県あるものの、下位(短い方)も3県入っている(表4を参照)。これは学力の低さが部活動の時間の長さに必ずしも関係しているとはいえないことを示している。全体の傾向が弱い相関であることと関係しているのだろう。

表3 部活動の短い都道府県

	部活動順位	学力順位
東京都	38	5
富山県	39	4
愛知県	40	9
山形県	41	35
京都府	42	13
福井県	43	1
岩手県	44	41
広島県	45	13
鳥取県	46	24
岐阜県	47	7

表4 学力の低い都道府県

	学力順位	部活動順位
島根県	39	15
熊本県	39	17
福島県	41	34
滋賀県	41	37
岩手県	41	44
高知県	44	16
鹿児島県	45	19
佐賀県	46	7
沖縄県	47	9

なお岩手県は表3、表4のどちらにも登場しており、部活動の時間が短い(全国で4番目に短い)にも関わらず学力が低い(全国で下位から5番目である)ことがわかる。これについては、同県では多くの中学校で部活動の全員加入制を実施していること、また部活動の時間は短いものの、終了後に引き続き保護者(または地域)の管轄のスポーツ少年団等として熱心に活動している場合がある(つまり生徒が帰宅後に家庭で学習する時間が短いと想定される)こととも関係しているかもしれない。

3. 同一生徒を対象として比較分析した結果

上記の分析では、運動部活動の活動時間は2019（平成31年・令和元）年度の中学2年生、学力は同年度の中学3年生が各々の対象であるため、比較対象が同一生徒ではない。

そこで、より正確を期すために、運動部活動の活動時間を、学力・学習状況調査の結果と同一対象の生徒にあたる2018（平成30）年度の中学2年生のもので比較してみた（分析方法は同じ）。そうすれば、中学2年生の時の運動部活動の活動時間、その生徒が中学3年生になった時の学力（4月）ということになり、同一生徒を対象とした比較分析になる。すると、同じように「弱い負の相関あり」という結果が出た（相関係数は -0.22017 ）。図3は、上記と同じ方法で算出したグラフである。

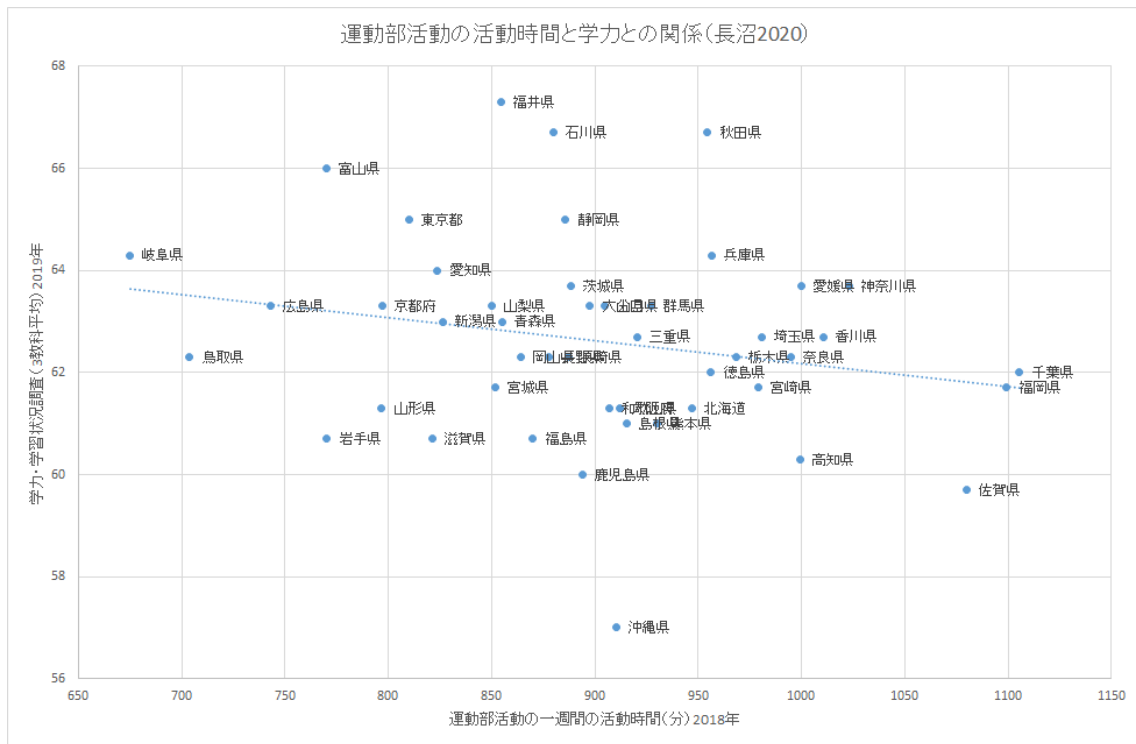


図2 運動部活動の活動時間と学力との関係(同一対象での比較)

各々の上位の都道府県を見てみると、上記と同じような傾向となった（表5、表6）。

表5 部活動の長い自治体

	部活動順位	学力順位
千葉県	1	30
福岡県	2	32
佐賀県	3	46
神奈川県	4	10
香川県	5	21
愛媛県	6	10
高知県	7	44
奈良県	8	24
埼玉県	9	21
宮崎県	10	32

表6 学力の高い自治体

	学力順位	部活動順位
福井県	1	34
秋田県	2	14
石川県	2	29
富山県	4	44
静岡県	5	28
東京都	5	40
兵庫県	7	12
岐阜県	7	47
愛知県	9	38

4. 部活動の活動時間と学力との相関

部活動の活動時間の長さや学力に相関があることは、既に文部科学省の平成 29 年度全国学力・学習状況調査で確認されており（図 3）、本分析と整合性があることがわかる。

当該調査では「平成 29 年度において、部活動の時間別に平均正答率を比較してみると、1 日当たり、1 時間以上、2 時間より少ない時間、部活動をしている生徒の平均正答率が最も高い状況にある」⁽¹⁾という結果が出ていたのである。

選択肢毎の平均正答率

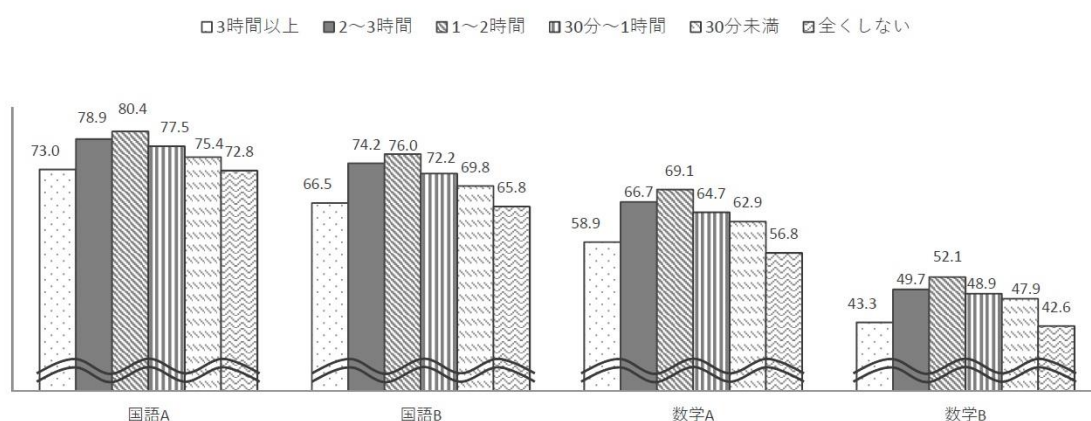


図3 部活動の活動時間と学力との相関

出典：文部科学省「平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果（調査概要）」

この文部科学省の調査については三点指摘しておきたい。

第一に、運動部だけではなく、文化部も含めた部活動全体で学力との相関を明らかにした点で注目に値する結果であった。

第二に、グラフは部活動の一日当たりの活動時間が 1～2 時間をピークとして山を描いており、つまり適度に部活動をしている生徒の学力が最も高く、あまり活動をしな（または全くしない）生徒と、部活動をやり過ぎている生徒はそれより学力が低くなっているというを示している。この状況は、生理学のルーの法則「身体（筋肉）の機能は適度に使うと発達し、使わなければ委縮（退化）し、過度に使えば障害をおこす」と酷似している。

第三に、部活動の一日当たりの活動時間が 1～2 時間の生徒が最も学力が高いという事実は、スポーツ庁の「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（2018 年 3 月）および文化庁の「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（2018 年 12 月）において部活動の活動時間を「長くとも平日では 2 時間程度」と定めていることの妥当性を明らかにしている。

5. 東日本と西日本で比較した結果

運動部活動の活動時間と学力について、東日本（北海道・東北・関東・中部の 23 都道県）と西日本（近畿・中国・四国・九州沖縄の 24 府県）の別に平均値を算出してみた。すると 2019（令和元）年度の 1 週間当たりの活動時間は、東日本が 790 分、西日本が 825 分であり、西日本の方が 35 分長かった（ここでの平均値は都道府県別の数値を単純に合計して算出、以下同じ）。学力は東日本 63.5 点、西日本 61.8 点であり、東日本の方が 1.7 点高かった。

ちなみに 2018（平成 30）年度の部活動の 1 週間当たりの活動時間は、東日本 878 分、西日本 920 分であり、西日本の方が 42 分長かった。

このことから、運動部活動の活動時間の長さは「西高東低」であることがわかる（学力は逆）。西日本の方が日の入りの時刻が遅いため長く活動できるのであろう。

6. 補足

なお、上記の数値でも明らかなように、運動部活動の活動時間はこの一年で明らかに減少している。部活動改革が進んでいる成果の一つとみることができる。この点を含めた経年変化については、以下の内田良氏による分析が詳しい。

内田良「運動部の活動時間 一年間で増加 2016 と 2017 年度の比較分析 都道府県間で増減に大きな温度差」（2018 年 4 月 9 日） <https://news.yahoo.co.jp/byline/ryouchida/20180409-00083748/>

内田良「部活動の時間数 減少へ 都道府県データの分析から見える改革の成果と課題」（2019 年 5 月 2 日） <https://news.yahoo.co.jp/byline/ryouchida/20190502-00124496/>

内田良「2019 年の運動部の活動時間数 大幅減に転じる ガイドラインの定着 週 3 時間減の県も」（2020 年 1 月 3 日） <https://news.yahoo.co.jp/byline/ryouchida/20200103-00157522/>

(1) 文部科学省「平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果（調査概要）」p.8。

<http://www.nier.go.jp/17chousakekkahoukoku/17summary.pdf>